四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol 15

北海道から届いた「友情の水」

香川県　三木町長

石原（いしはら）　收（おさむ）

1994年以来、11年ぶりに早明浦ダムの貯水率がゼロとなった今夏の香川県の大渇水は、台風14号のもたらした降雨であっさりとけりがついた。

吉野川水系水利用協議会が6月15日に第1次取水制限を実施して以来、厳しい給水制限はほとんどの市町で断行され、公営のプールや温泉施設は軒並み休業し、風評被害によって観光客が減少するなど、県下に様々な悪影響を及ぼしました。

三木町は、県都高松市の東に沿うように75.78平方キロを画し、人口29,000人の県下最大の町であり、中央部を東西に高松自動車道、国道11号線、県道高松長尾大内バイパスなど香川県を代表する3路線が横断する東西交通網の要衝であります。また、香川大学医学部、農学部、県立三木高校などの教育施設が充実し、広い町域には今もなお青々たる田園地帯が広がり、南部の山地では自然豊かで文化の薫り高い名勝が数多くあります。

今夏の大渇水は、このような風光穏やかな本町に置いても極めて深刻な影響をもたらし、その後の状況の悪化によっては夜間断水もやむなしという危機的な状況にまで追い込まれました。

そのような中、姉妹都市として交流を深めております北海道七飯町（なないちょう）（町長、水嶋　清）がこの窮状を憂望され、北海道の名水「夢水氣（ゆめみずき）」2リットルペットボトル15,000本を贈呈したいとの温かい申し出をいただきました。厚顔を恥じつつも水嶋町長のご厚意を快くお受けすることにいたし、ほどなく届けられたこの慈雨のごとき水は、早速に広報委員のご協力を得て町内1万余の全世帯に配付させていただきました。渇水に疲弊していた住民は、七飯町の篤い気配りにどなたもたいへん感動され、恩返しに当地を訪問したいとのコメントを寄せられたり、直接、七飯町にお礼を言われたりなど大きな反響を呼び、これらの話題は彼地の新聞や当町のホームページなどを通じ、美談として広く紹介されたと聞いております。

北海道の大地に湧くこの水は、本町と七飯町の両町住民の心に、まさに「友情の水」として深く染みいるものとなったのです。

8月29日北海道七飯町から届いたミネラルウォーター
2250箱（6本入り）

到着した5台のトラックからの搬出作業